

学会参加報告書

R21-088 若山 愛優

学会名：日本薬学会第 144 年会

日時：2024 年 3 月 29 日~31 日

1. 参加した目的

私は以前から、普段私たちの前で放射線技術学について教えてくださる先生方が、大学内で講義を行う以外にどのようなことをしているか気になっていた。そこで今回、学会参加奨励金について知り、日本薬学会第 144 年会に参加することに決めた。さらに、普段見る機会のない最新の医療機器を見ることがや専門的な知識に薬剤師、研究者、技術者の方たちから触れる機会を得て、自分の知識や経験を増やすことができると思ったためである。

2. 学会会場における様子（発表や展示会等）

本学会には薬剤師、研究者、技術者など様々な薬学に関係する先生方や企業の方々が参加しており、規模の大きさが想像以上であった。会場入口付近には手前には、たくさんの医療装置が並んでおり、その奥にはポスター発表や専門的な本が販売されていた。医療装置には、自動で薬剤をとることで取り間違いを防止できる自動薬剤ピッキング装置や凍結乾燥機などの装置を拝見した。その中でも同じ種類の装置が会社ごとで見られ、他社同士で競争されている様子が見られた。また、ポスター発表では、薬学関連だけではなく、美容に関する研究などもあり、他分野の参加者でも興味を引くものがたくさん見受けられた。

3. 今回の学会に参加して得られたこと（今後活かしていきたいことなど）

実際に最新の医療装置を拝見し、企業の方から説明して頂くことで、臨床で使用されている医療装置に対する興味が深まった。また、薬剤師や研究者などの薬学関連の発表を聞いて、放射線技師に関する知識だけに目を向けていたが、もっと広い視野で医療に関する知識を知ることによって今後の勉学や生活に活かすことができると感じた。そして、これから今回参加されていた発表者のように、医療分野に関する様々な知識をもっと追求していくべきだと思った。

4. 学会参加の感想

私はこれまで本学会のように、意見交換や研究発表を行う大きなイベントに参加したことがなかった。そのため、学会参加する大勢の先生方、会場の広さ、最新の装置のスケールの大きさに目を奪われた。屋木先生のポスター発表も拝見し、F-18 に関する

発表だったので、自分が知っている放射化学・核医学に関する内容で興味が持って説明が受けられた。また、専門的な分野の発表だけでなく、「薬は水ではなくジュースやお茶で飲むとどう影響するか」といった日常生活で考えるような疑問を題材にした研究などの発表を聞いていて、我々のような他分野の学生でも興味が湧くようなものが多くあった。学会参加奨励金によって本学会に参加する機会を頂けてよかったと強く思った。